

四月十二〜十三日に開催された「結結プロジェクト」の第五回車座に参加しました。今回は気仙沼での開催で、景観の美しい大島での観光もしました。被災前同様の景観を築しめるまで復興したことに感慨を受けながらも、放置されたままの倒れた電柱や折れた桟橋などは今回気になった「ギャップ拡大」の象徴にみえました。写真は山崎陽一氏(フォトジャーナリスト)。

まず経済のギャップがあります。オーガニックコットン栽培、再生可能エネルギーなどでいわき再生をめざす「おてんと

大和総研調査本部  
主任研究員  
河口真理子さん



## 東北復興日記

36



# 気になる二つのギャップ

SUNプロジェクト、者の地域に根差した取り組みの進展は着実な復興うです。

創生「かじか村」なども感じさせてくれます。二つ目は心と経済のギャップです。心の問題は、より深刻化しているように見えます。経済支援と同時に長期的な心のケアの必要性を痛感しました。

最後に内と外のギャップです。被災地では問題山積みですが、被災地外では、復興はピークを越えた、という認識になりつつあります。被災地のものだから購入するという消費者は今後減少すると思われ、商品自体の競争力強化が急がれます。

また企業の長期支援も通常三年や五年を区切りにするので、企業支援の減少も視野に入れたビジネス計画にすべきでしょう。

陸に打ち上げられた漁船など津波の象徴が消え、目に見える傷痕が縮小していくと同時に拡大する目に見えないギャップ。今後の復興は「復興2・0」へのバージョンアップが必要と痛感しました。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。